別子往還道を訪ねて

第二回　旧別子①

旧別子。

元禄４年（１６９１年）の開坑以来、江戸時代・明治時代を通して200年に余り銅山の中心地であった場所です。銅山越の南斜面に、世界有数の鉱山業が展開されました。江戸時代末期の様子は、『鼓銅図録』といった本にまとめられ、世界中に知れ渡っています。松山市の人口が３万人であった明治時代に、旧別子の交流人口は１万人を超えていたと言われています。

日浦登山口から、古の登山道を無縁仏慰霊塔に山中の安全を祈願した後登っていくと、最初に目につくのは、醸造所跡の煉瓦煙突です。最盛期には、年間100kℓものお酒を造っていました。先に進むと、石積の上に煉瓦塀跡が見えます。小足谷の接待館跡です。明治34年（１９０１年）には、住友家の家長さんが訪れています。近くには、採鉱課長の屋敷跡の煉瓦塀もあります。また、しばらく比較的なだらかな道に沿って歩を進めていくと、小足谷小学校跡の長い石積が現れます。明治32年には、約300人の生徒数を誇っていました。

大変立派な石垣と石段が目に飛び込んできます。石段を登ったところが小足谷劇場跡です。明治22年に小学校とともに建設されました。２千人を超える収容人員を誇り、廻り舞台まであったと伝えられています。５月の山神祭には、京都から来た役者による歌舞伎が催されたりして、大変なにぎわいだったようです。更に歩を進めると、川には暗渠が架かっています。明治12年に着工した別子銅山初の洋式製錬所であった高橋製錬所が建っていました。明治16年には、この地に病院も設立されました。

ひと踏ん張りで少々きつめの坂を登ると、ダイヤモンド水です。ここで休憩しましょう。

小足谷の接待館跡

市政だよりにいはま（通巻七八〇号）平成二十三年六月一日発行　毎月一回一日発行

広告欄

広告欄

広告掲載については、ソネ　デザインスタジオ（☎ 0897 - 33 - 5721）へお問い合わせください。